

両郷地区市政懇談会会議録

懇談テーマ1【地域の安全・安心について】

巷では、強盗や殺人などの話題を聞くが、地域の安全・安心な生活を保つには、地域の方々の協力だけでは不安を感じている。

そのためにも、外部の警察官の巡回を多めにしていただき、夜間の防犯を防ぐ意味も含めて多くの街灯の設置が望ましいと思うが、市の考えを伺いたい。

【回答】

地域の安心・安全について、本市では、市民から不審者情報や犯罪に関する情報が寄せられた際には、大田原警察署と情報を共有するとともに、必要に応じて巡回の強化を要請している。

また、大田原警察署と連携し、重大事件や事故が発生した際には、速やかにその情報を収集し、「よいちメール」を活用した迅速な周知に努めている。今後も市民の安全・安心の確保に向け、警察との連携強化を図っていく。

防犯灯の設置について、防犯灯は、住宅街や生活道路などに設置する小型の照明で、夜間の犯罪抑止や通行人の安全確保を目的としている。

現在、本市では、市内に約7,400基の防犯灯を設置している。その修繕費や電気料金については、自治会の皆様に負担いただくことなく、年間約2,000万円の維持管理費を全額公費で負担している。

防犯灯の新規設置について本市では、個人からの要望に対応するのではなく、自治会長からの要望があった場合に、職員が現地確認を行ったうえで、設置の必要性等について判断し、適宜設置することとしているので、ご理解いただきたい。

懇談テーマ2【デマンドバス停留所について】

消防センター前と第五集会所は、雨風を防ぐ設備がなく、バッテリーカーを利用する高齢者などは、バッテリーカーを停留させる場所もなく、使用しづらい。

消防センター前の停留所などは利用者が少ないようであるので、もう少し利用がありそうな場所に停留所を移動した方がよいのではと思われる。

【回答】

デマンド交通の乗降所は、利用者の皆様に安心してご利用いただけるよう、道路の幅員が十分か、車両が安全に停車できるか、歩行者や自転車の通行に支障がないかなど、現地を確認して決定している。

また、できるだけ、ご希望の場所に設置できるよう地域の状況に合わせて検討している。

乗降所の移動は、現在の利用状況や地域の需要を確認した上で移動することが可能である。通常は、個人の方からの相談に対応しているが、今回は現在の乗降所を廃止して別な場所へ移す内容であるため、自治会長など地域の代表者を通じて、生活環境課までご相談いただきたい。

今後も、利用しやすい交通サービスが提供できるよう努めていく。

懇談テーマ3【消防団員の減少について】

市消防団第九分団第二部の団員が減少し、現在4、5名しかおらず、出動に支障をきたしている。(出動に3名が必要であり、最近も30分から1時間待機していた。)

昨年の市政懇談会でも課題として提出したが、返答がないようである。

若い団員は会社勤めが多く、平日の日中はほとんどの団員が地元におらず、出動が困難である。

団の合併やOBの出動、限定出動など、市の見解を伺いたい。また、方向性の指示をいただきたい。

【回答】

令和8年4月1日現在の消防団員数は、定員数788名に対し、団員数814名で、充足率は103.3%となっている。しかしながら、団員数は毎年減少しており、数年以内に充足率が100%を下回ることが予測される。新入団員の確保については、消防団各部及び自治会において取り組んでいただいているところだが、人口減少や地域を取り巻く環境の変化等により、団員数増加を見込むのは厳しい状況であると認識している。

消防団各部の統合については、基本的には各消防団の分団単位で話し合いを行い、その後、自治会や公民館等の関係団体と協議を行うものとしている。

第9分団についても、昨年度の市政懇談会においてご意見をいただいたことから、分団内でアンケートを実施した。その結果、部によって様々な考え方があるものの、各部とも今後の団員の確保が共通の課題であるとの認識をもっており、将来を見据えた話し合いが必要であると考えている。

また、OBの方の出動については、機能別消防団員制度の加入を促し、地域消防力の強化を図ることも必要であると考えている。